

本部広報2018-18  
2018年7月17日

## ゲリラ豪雨や濃霧、運転席からの視認性の違いは？ ～灯火の有無による違いを検証～

JAF（一般社団法人日本自動車連盟 会長 矢代隆義）は、台風による大雨やゲリラ豪雨、また山間部などで濃霧が発生した際には、視界が悪くなり運転には注意が必要であることから、その視認性を検証しました。あわせて豪雨時の衝突被害軽減ブレーキ（いわゆる自動ブレーキ）の作動について検証を行い、結果を7月17日（火）よりホームページに公開しました。



雨量 80mm/h（昼間）の豪雨テストイメージ  
テスト車（赤）から見た前方の停止車両（テールランプ点灯）

今回の実験では、豪雨や濃霧を昼夜別に再現できる施設を使い、テスト1では「豪雨」、テスト2では「濃霧」の悪天候時に前方の車両がどのように見えるのか、以下のパターンで実施しました。また、補足実験として、衝突被害軽減ブレーキ（いわゆる自動ブレーキ）は、豪雨時でも止まれるのかどうかも併せて実施しました。

### ■テスト1：豪雨実験（前方にいる停止車両のライト点灯の違いで、止まれた位置は？）

前方の停止車両に向かって、テスト車（自車）が40km/hで走行し、運転席から停止車両が見えたら急ブレーキを踏み、停止位置を計測しました。

<テスト条件>

- ①雨量は、80mm/hと30mm/h※
- ②時間帯の想定は、昼間と夜間
- ③テスト車のヘッドライトは、昼は下向き 夜は下向きと上向き

※気象庁の用語では、雨量80mm/hは「猛烈な雨」、雨量30mm/hは「激しい雨」とされています。

<停止車両設定>

無灯火、テールランプ点灯、リアフォグランプ点灯、ブレーキランプ点灯

### ■テスト2：濃霧実験（前方にいる停止車両のライト点灯の違いで、見えた位置は？）

前方の停止車両に向かって、テスト車（自車）を5m間隔で近づけ、運転席から停止車両が見えた位置を計測しました。

<テスト条件>

- ①霧の濃さは、前方を見通せる距離の目安が30m（視程30m）と60m（視程60m）
- ②時間帯の想定は、昼間と夜間
- ③テスト車のヘッドライトは、昼は下向き、夜は下向きと上向き

<停止車両設定>

停止車両設定：無灯火、テールランプ点灯、リアフォグランプ点灯、ブレーキランプ点灯

本テストでは「車両」だけでなく「歩行者」の視認性についても実験を行っております。すべてのテスト結果はJAFホームページもしくは添付資料をご確認ください。

▼ユーザーテスト：水没／豪雨／濃霧

<http://www.jaf.or.jp/eco-safety/safety/usertest/submerge/index.htm>

このリリースへの問い合わせは以下までお願いします。

一般社団法人 日本自動車連盟 広報部

Tel : 03(3578)4920 Fax : 03(3578)4912

E-Mail:koho@jaf.or.jp URL: <http://www.jaf.or.jp/>

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館